



100%ORANGE 作

この絵本は、「0. 1. 2. えほん」シリーズの1冊で、まさにめだかコースにぴったりです。赤ちゃんは、擬音語・擬態語、いわゆるオノマトペが大好きです。動物の名前より、その鳴き声「ニャアニャア」「ワンワン」「メェメェ」「チュウチュウ」などで覚えていきます。「ぶうさんのプー」は主人公がこぶたなので「ぶうぶう」です。

とても元気なぶうさんは子どもそのものです。読んでもらう子どもたちは自分のことのように思えるでしょう。色彩豊かな、勢いある絵も子どもたちの目をくぎ付けするに違いありません。表紙は元気よく目覚めたばかりのぶうさん、裏表紙にはベッドでおやすみしているぶうさん。裏表紙まで見せてあげてください。何度も繰り返して読んであげているうちに、子どもの口からも「プー」という声が発せられるのではないのでしょうか。

イラストレーターとして人気の及川賢治・竹内繭子夫妻で結成された100%ORANGEの2001年の作品です。

吉井 康文
こひつじ文庫特別アドバイザー

- こぶたの「ぶうさん」はおはようも「プー」、おいしいも「プー」、こまったときも「プー」。いろいろな気持ちを「プー」にこめて表現します。
- この作品ではじめて赤ちゃん絵本を手がけた100%ORANGEさん。“たとえば素敵な音楽に感動したとき、その感動の気持ちを「プー」だけで人に伝えるとしたら、そんなに大変でかつ愉快的なことか……”と思ひ、この絵本を作られたそうです。
- ぜひ繰り返し読んであげてください。ダイナミックで色彩豊かな挿絵と「プー」の言葉にきっと親子で元気がもらえることでしょう。
- 5月号は人気の絵本作家、なかやみわさんによる赤ちゃん絵本『だれかな? だれかな?』です。

<H・M>



マレーク・ベロニカ 文・絵
とくなが やすもと 訳

ハンガリーの作家、マレーク・ベロニカの絵本です。もう50年以上前に描かれた作品なのに少しも古くさく感じません。余分なものを排したシンプルな画は今でもとてもモダンでおしゃれです。広い空間のなかを小さな男の子ラチが表情豊かに動きまわります。そして世界一弱虫だったラチが、小さな赤いライオンと一緒にいるとこわいものがなくなってだんだん強くなっていく様子がいきいきと描かれています。幼い子どもが不安や心細さをどうにかして乗り越えようと古いタオルやお気に入りのぬいぐるみを肌身放さず持っている姿をよく目にします。けれどもやがて自分の居場所が見つかり安定してくると自然にそれらがなくても平気になります。それが自立なのでしょうね。でもその自立までの過程は子どもにとってはさまざまな試練の時。その傍らに誰かが、ラチのライオンのような誰かが寄り添って力づけ励まし共にいてあげてほしいと思います。

原 和夫
塩尻めぐみ幼稚園園長

- ラチは世界でいちばん弱虫です。そんなラチのところへ小さなライオンがやってきました。ラチはライオンがそばにいてくれることで少しずつ強くなっていきます。
- 絵本と同じマスコットライオンを大切に持っていたという方や、幼稚園の頃のバイブルだったという方のお便りをいただくことがあります。いつも弱虫のラチが、勇敢な子どもになっていくようすは、勇気を与えてくれます。この絵本が子どもたちにとって、なにかを乗り越える力になってくれますように。
- 次回5月号は、愛らしい金魚のトトの冒険を描く『きんぎょのトトとそらのくも』です。お楽しみに!

<M・M>



いもとようこ 絵・文

挨拶は簡単だと多くの方が考えています。でも知らない人に「おはよう!」と声をかけられると「どうしよう」と戸惑いがひろがります。そして考えるのです。子どもはこんなにも考えるのです。結論は「ほくも おはようっていおう」です。しかし物事はそう簡単にはいかないものです。ところが、こねこの坊やは「だめだ」とは言いますが「もう やめた」とは言いません。「もっと れんしゅうをして」と考え「おはよう」「おはよう」と練習をし、自信を持って言えるようになります。

いろいろな人に、たくさんの人に「おはよう」って言ってみると大きな変化が!この「いいきもち」は、子どもにとってとても大切な気持ちで、とても大切な経験なのです。一緒に「いいきもち」を味わってみましょう。作者のいもとさんが、「今度はあなたから言ってみたら」と私たちの背中をそっと押してくれています。

齋藤 美恵子
元千歳幼稚園園長

- 37期目を迎えた「こひつじ文庫」をご購読いただきありがとうございます。
- この「読み聞かせのまえに」は、保育と絵本に長く関係され、その時々多くの絵本を紹介してこられた齋藤美恵子先生が執筆してくださっています。
- 2019年度「こひつじ文庫」のめだかコースの最初の絵本は、「おはよう」です。「おはよう!」のあいさつは、みんなを元気にしてくれます!
- 次回5月号は、にしまさかやこ先生の『わたしのワンピース』です。うさぎさんがワンピースを作りました。それを着てお花畑を散歩すると、ワンピースが花模様になっ……。
- 次々変わるワンピースの模様。お楽しみに!

<N・T>



筒井 頼子 作
林 明子 絵

途中で転んでしまったり、思わず涙がこぼれたり、小さな子どもの姿がみごとに描かれているこの絵本は、誰もが知っている、そして、誰もが出会うべき絵本だと言っていいでしょう。主人公のみいちゃんは、立派にはじめてのおつかいをやり遂げるのですが、最後のページで、お母さんが坂の下で待っていてくれるところにこの絵本の深い意味があるのです。

親の目の届くところで、しかも自分の力で、何かを成し遂げる体験は、子どもの成長のためにとても大切です。是非色々な家事のお手伝いを子どもにお願いしてみましょう。そしてこの絵本のお母さんのように、さりげなく見守ってあげましょう。

掲示板に搜索願いのチラシが貼られている猫は、実はみいちゃんがお友達と出会うページのブロック塀の上をのんきに歩いています。逃げたインコが電線に止まっていたりもします。楽しい細部もお見逃しなく。

細井 保路
カトリック藤が丘教会司祭

- 子どもたち、そして見守る大人にとってもドキドキの初めてのおつかい。この絵本は繊細な気持ちに寄り添いながら、きっとできるよ、と優しく語りかけてくれます。
- 作者の筒井頼子さんにとって、『はじめてのおつかい』は子どもに向けて書いたはじめての物語。娘さんの初めてのおつかいはらはらと見守った経験からこの物語が生まれたそう。林明子さんは町中を歩いて、時にはしゃがんだ目線で写真を撮ったりしながら取材をし、絵を描いてくださいました。子ども目線と、見守る大人の視線が見事に結実したこの絵本は、時代を超えても色褪せることなく、たくさんの人たちに読み継がれています。
- 次回5月号は言葉遊びが楽しい絵本『かえるがみえる』です。お楽しみに!

<M・M>